

アマチュア海外日食10周年記念会

(実行委員会 情報センター 川天 共催)

箕輪 敏行

1968年ソビエトアルマアタア日食にアマチュアがはじめて参加してより丁度本年は10周年になる。この10年間にメキシコ、アメリカ、アラスカ、アフリカ、オーストラリアと海外日食観測に参加した人数は相当な数になる。この10年を反省し今後を考えていく集会は第10回アマ天宇都宮大会分科会で決議された。実施に当っては多少の屈曲はあったけれど結局川崎で引受けることにした。先ず行事実行世話人会を全国より17人助言者に東京天文台秦茂氏をお願いし準備委員会を国立科学博物館にて2度ひらいた。

当日は計画表予定の如し順潤にはじまり先ず木村世話人の開会のことば、ソ連日食の経過から苦心談にはじまり、ついで代表世話人森久保 茂の挨拶、来賓としては市教委社会教育部長西村俊行氏、国立科学博物館 村山定男氏、両氏の祝辞があり、直ちに各観測隊の思い出話を含めての研究発表にうつる。

1968 ソ連 木村 関、 1970 アメリカ メキシコ 齊田 箕輪

1972 アラスカ 佐藤 松尾 1973 アフリカ 塩田 富岡

1974 オーストラリア 高橋 大越 1978 オーストラリア 足立 山口

森久保 その他 山下隊の報告 座長 早川(北海道) 船田(九州)

思い出と含めて美しいスライド若干の悪天候もあったけれどこの10年間の観測地の選定を含めてアマチュアの観測はまざまざの成功と意義があったとみてよかるう。

次いで昼食に入り休み時間を利して16mm映画の上映になる。

○ソ連日食の思い出 地人書館の深沢氏撮影

○アフリカ船上観測団の思い出 野崎賢三氏撮影

つぎに14時記念講演にうつる

「日食観測30年回顧」 東京天文台 秦 茂 先生

アマチュアの今後のテーマ 「二点間のコロナ観測」 「コロナの赤外線撮影」など

今後の観測テーマにつき有益な話をおききする。

途中より参加された下保 茂先生に祝辞をいただき先生は東京天文台に在職中五回の日食観測に参加したが実際にコロナを目でみた時間はほんのわずかでアマが羨しいともいわれ一同なるほどとうなずきあう。

最後にパネルディスカッション 「今後の日食観測は如何にあるべきか」 司会 佐藤

パネラー 塩田 足立 山下 富岡

組織の問題と、共同観測が大きなテーマ となる(この項別掲)

予定の如く17時終了 懇談会を別室で盛大に行う。 当日参加者102名「以上」

おしらせ パネルディスカッションで論議された今後の組織の問題について53年11月5日国立科学博物館にて10周年会の反省、決義を兼ねて討議した結果、日本日食研究会準備委員会世話人として、木村精二 佐藤精一 山口正博の三氏及び、情報センターより3名計6名の世話人で今後の構想と計画をねることができました。